
1ピストルで嘘
自称ビッチはウブに濡れる
ユウキHB
…YUUKI HB…
1

1ピストンでバレる嘘
～自称ビッチは
ウブに濡れる～

第　1　話


ズン
ズン
ズン
ズン
モデルの『LUNA』じゃない!?
ん!?
ちょっと
あそこにいるの…
!


俺東第二の
トオルっつうんだけど
知ってる？知ってるよね？
東地区で一番の
イケメン！
なんつって（笑）
SNSのフォロワーも
めっちゃいるし
俺ケッコー有名なんだ
今度飯でも一緒に――…
失せろ
カマ野郎
トオルくんに
声かけられてる
じゃん
LUNAちゃん
大丈夫かな…
トオルくん
かっこいいけど
短気なんだよね…
あーあ…
来るんじゃなかった…
こんな
時代錯誤のロン毛カマ男に
「イケる！」と思われるなんて
サイッテー…！
て…てんめ…ッ
調子乗り
やがって…！
！
ガッ
きゃあああッ!!

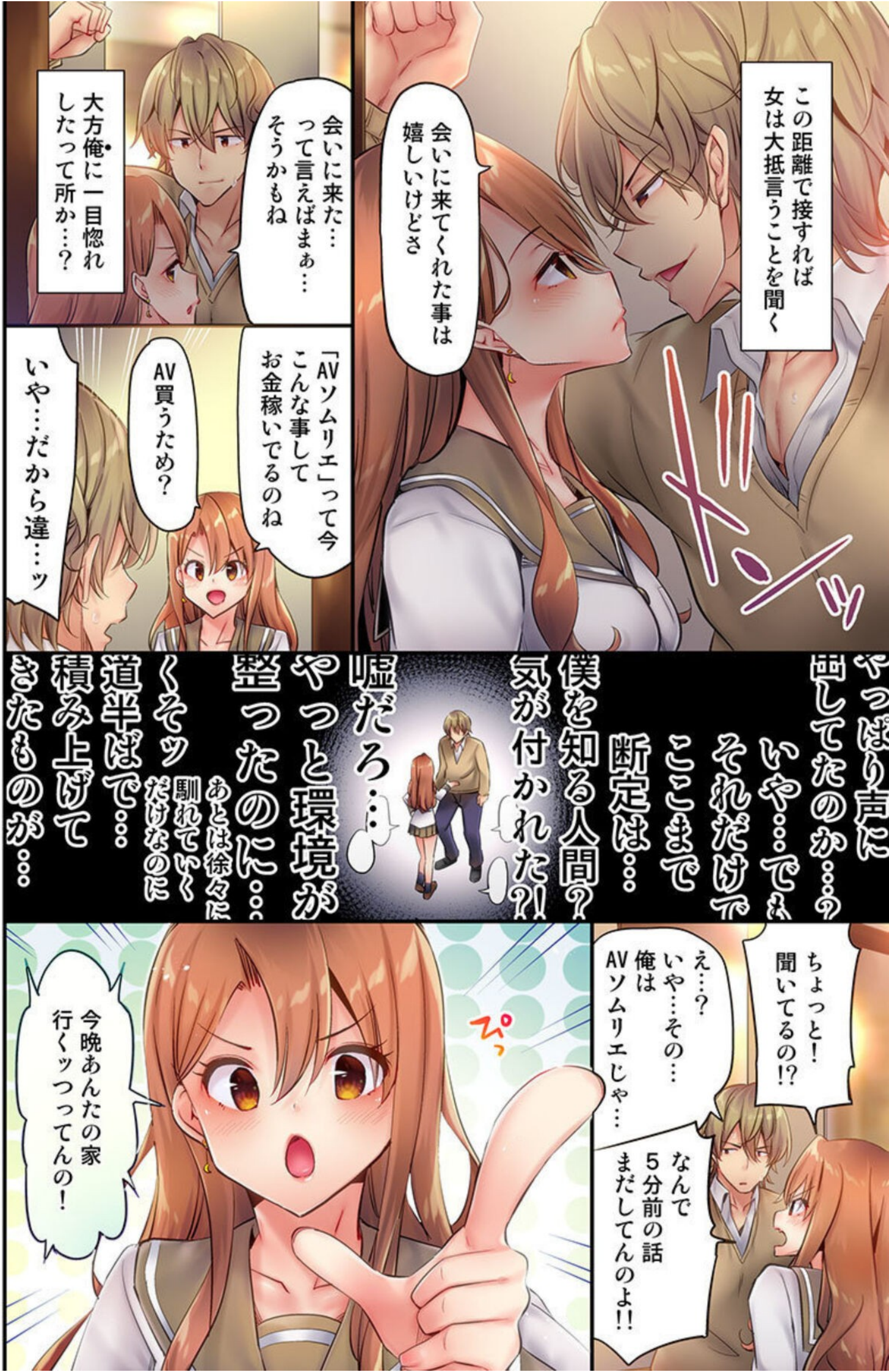

おっと
そこまで！
グ
イッ
トオルっ
俺らのイベで
揉め事は勘弁な
あ…あぁ
わりぃ…
ついカッと…
隼人くん―…ッ!?
や
キャー♡
キャー♡
キャー♡
キャー♡
キャー♡
は…ッ
それに―…君も
みんなで
楽しくやろうぜ
なッ？


…!
あなた…
きゃー♡
どうして隼人くんいるのー!?
ステージこれからでしょ!?楽しみにしてるから!
あぁッだから忙しいんだ失礼するよ
あ…
みんなも楽しんでくれよな!
くっそー逃げられた
隼人くんに抱かれるためにはもう少し露出増やした方が良いかなー
美樹肉食ぅー
でも隼人くんは並大抵の色気じゃ無理でしょ
何百人も女抱いてるらしいよ
ふーん…


はぁ…
はぁ…
近づくことは出来るようになった…
でもまだ…触れるのは…
くそ…ッ
全然…治らないな…
女性恐怖症…！
鳥肌やば…
はは…
はぁ…
えらく…高みに来ちまったな…

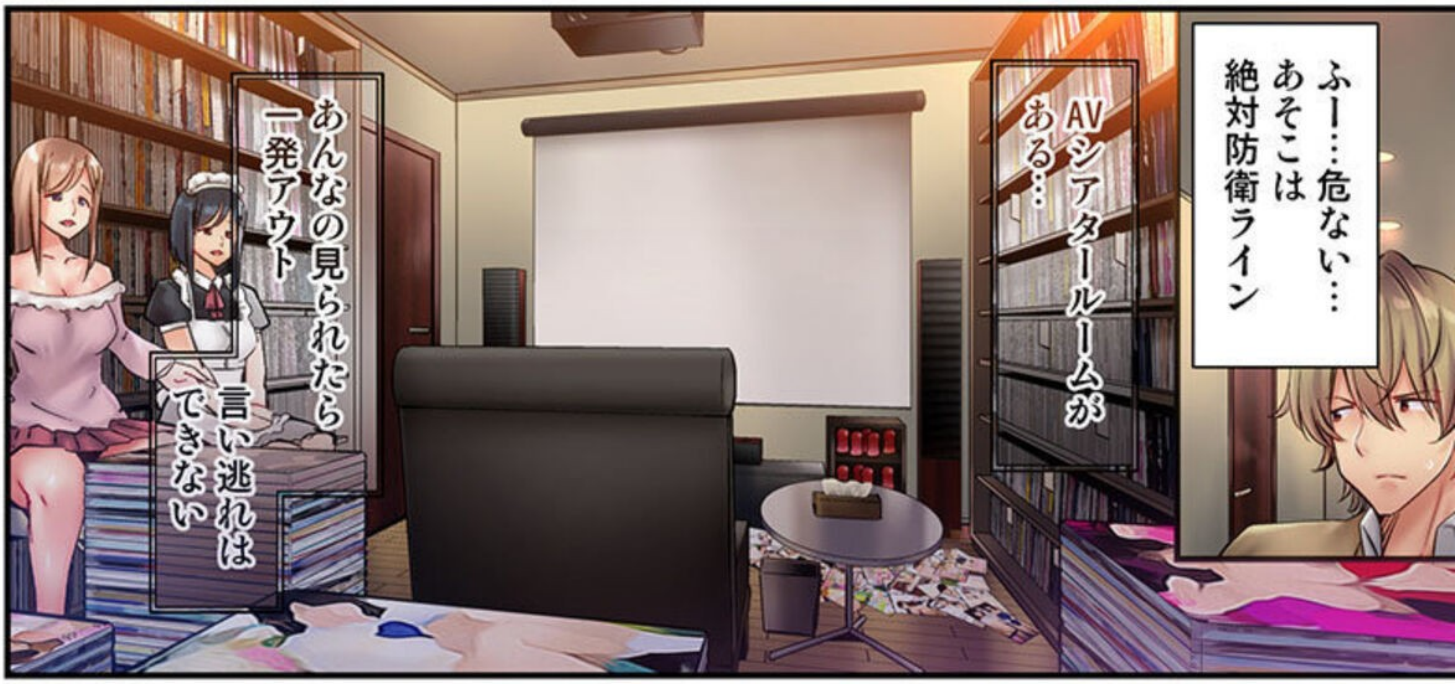

before
少し前まで
「童貞AVソムリエ」と
貶まされていた
陰キャ代表のこの僕が…
画面越しに見る分には
拒絶反応も起きなかった
僕の行き着く先…
それがAVだった…—
ある日級友に
AVの山を見られ
次の日には学内に
知れ渡る事になる
そこから先は
暗黒時代…—
そんな状態から
抜け出したかった
元凶である
女性恐怖症も克服
したかった
きっかけが
欲しかった…
進学は
過去を捨てる
いい機会(きっかけ)だった…
結果手に入れた
最高の環境
誰も僕とは
気が付かない…！

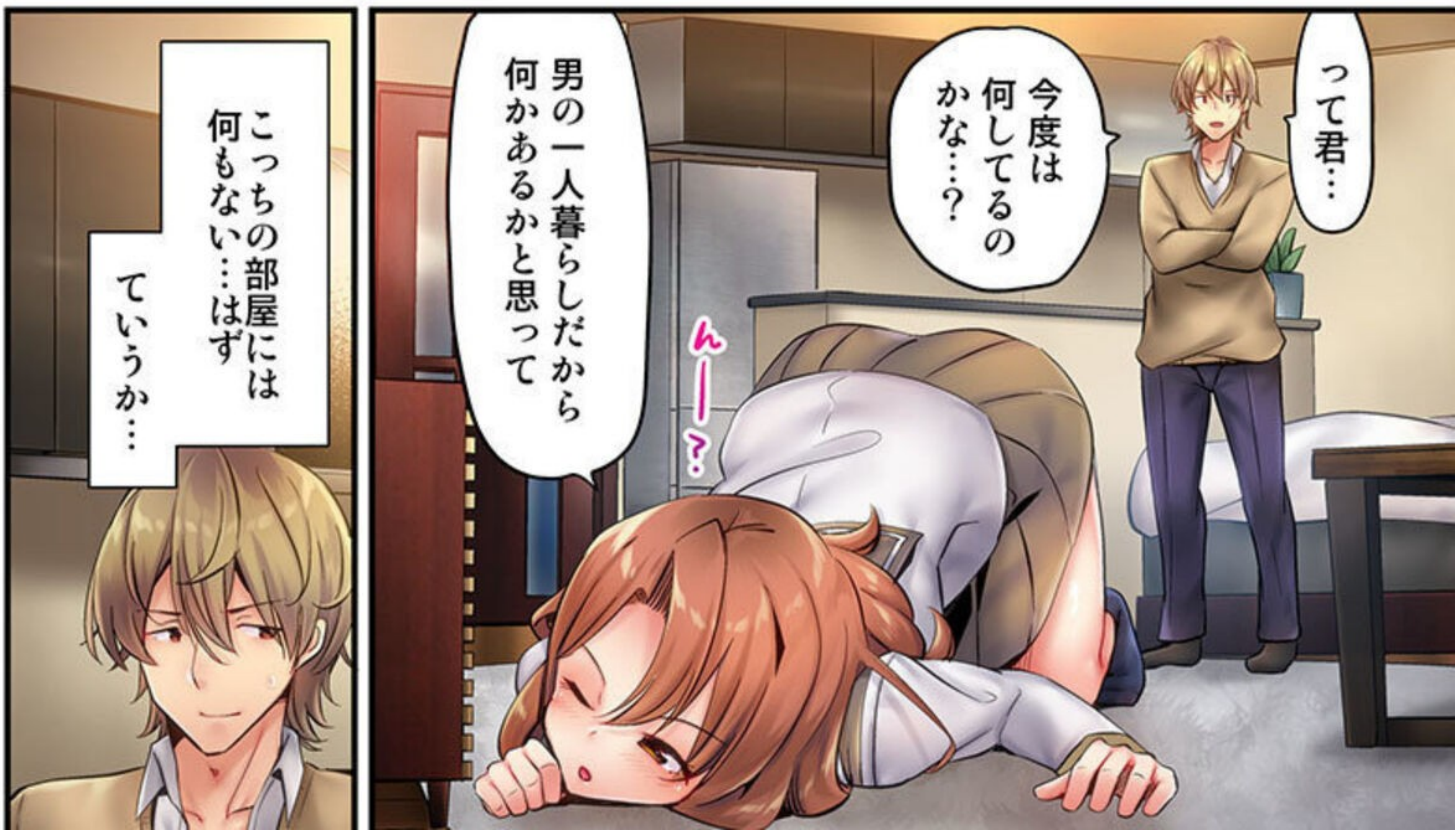

未だに女子は怖い…
でもこの環境なら
徐々に治るはずだ…
だから僕は――…
…いや俺は…
過去を隠し
素を捨て
演じる
誰にも…
バレちゃ
いけない…！
「AVソムリエ」
なんて
もう呼ばれる事の
ないように…―
へ…？
あれ？
声に出してた…？
な…ッ
なんでもないよ
君…
さっきの子だよね
ここは関係者以外
立入禁止だ
この環境下で
生活してみて
わかったことがある


この距離で接すれば女は大抵言うことを聞く
会いに来てくれた事は嬉しいけどさ
メンッ
会いに来た…って言えばまぁ…そうかもね
大方俺に一目惚れしたって所か…？
「AVソムリエ」って今こんな事してお金稼いでるのね
AV買うため？
いや…だから違…ッ
やっぱり声に出してたのか…？
いや…でもそれだけでここまで断定は…
僕を知る人間？気が付かれた?!
嘘だろ…
やっと環境が整ったのに…
あとは徐々に馴れていくだけなのに
くそッ道半ばで…
積み上げてきたものが…
ちょっと！聞いてるの!?
え…？
いや…その…俺はAVソムリエじゃ…
なんで5分前の話まだしてんのよ!!
ぴっ
今晩あんたの家行くッつってんの！


な…
なんで!?
何度も説明させないで
ほんじゃまたあとで
なんで俺の家に来る流れになったんだ?
ちょっとどしてそんな距離とるのよ
え…
あ…あぁ
いや…それよりもこの女…
俺の過去を知ってるなら口止めしなくては…
なによ
しかしまだ決まったわけじゃ…
俺に近づきたい一心でさっきの一言を武器に画策している可能性も…
こちらから墓穴を掘るわけには…
ちょっと待ってて部屋片付けるから
おじゃましまーす
いや待てってば


ガチャ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
ちょ…ッ
なんで鍵なんて掛けてるのよ！
まぁまぁ…


ふー…危ない…
あそこは
絶対防衛ライン
AVシアタールームがある…
あんなの見られたら
一発アウト
言い逃れはできない


って君…
今度は何してるのかな…？
男の一人暮らしだから何かあるかと思って
んー？
こっちの部屋には何もない…はず
ていうか…



パンツだ…！
パンツが見えてるぞ!!

—と
いかんいかん
罠かもしれん冷静に…

お…ッ
俺がやましい事
してるわけ
無いだろ？

ふーん

女呼べば
いい話だしね

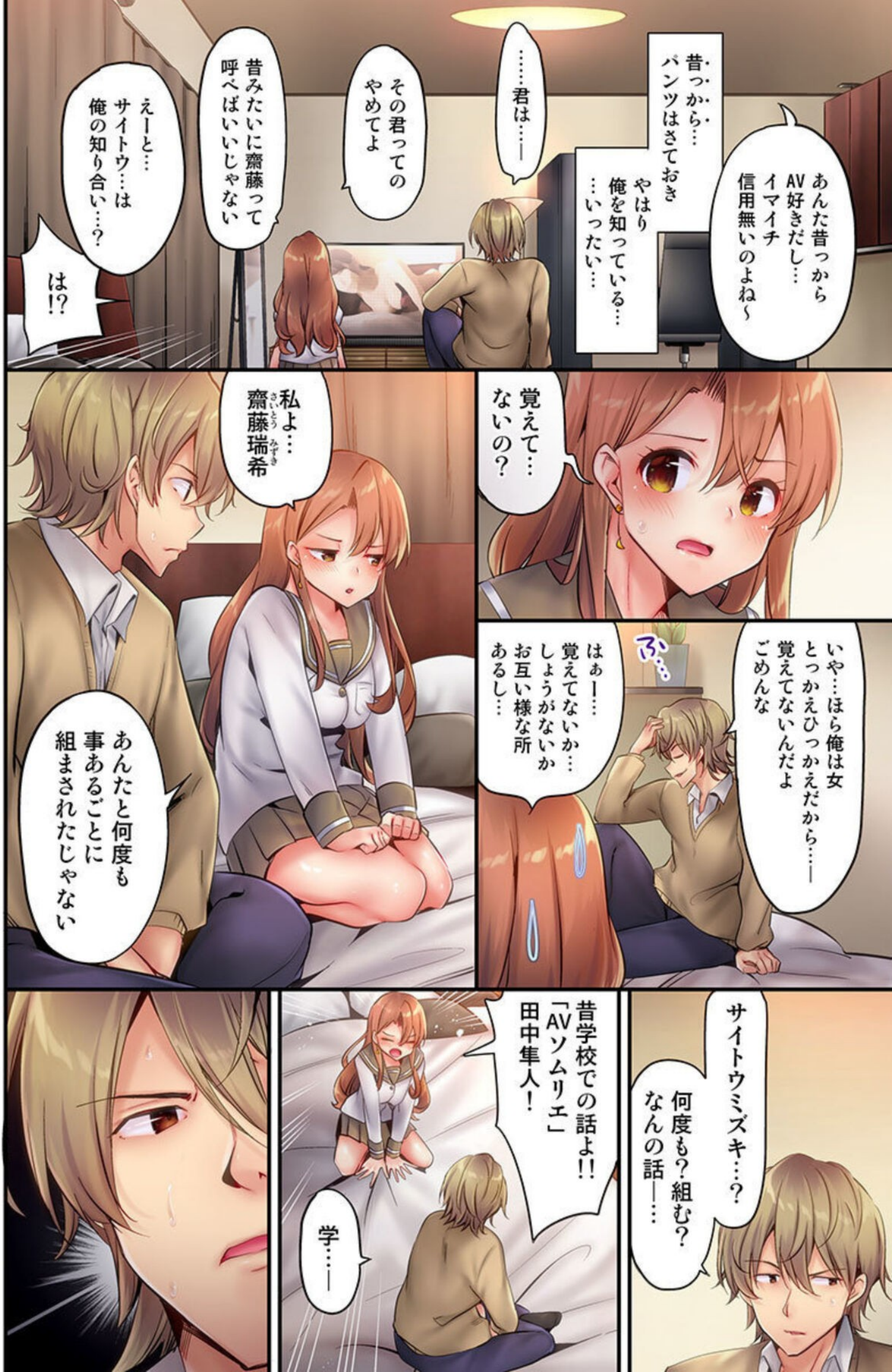
プレイヤーから
こんなん
出ましたケドー

「童貞レッスン
～憧れのAV女優が
童貞くんを逆レイプ～」

あぁ——ッ
イベントで忙しく
積むのも勿体無いから
寝ながら消化していた
新作AVィィ——!!


あんた童貞なの？
な…ッ!?どどど…ッ俺が童貞なわけ…ッ
知人の童貞くんに相談されたけど俺にはわからねーから
そいつの気持ちを理解するために見てたんだ
フーン…
じゃ一緒に見てみようか
私もどんなのか気になるし
え？
ココこんなに固くなっちゃって…
あ…そこは…
まさか…
生で触ってほしいです…ッ
まだ…だーめ♥
女の子と自宅でAVを見る事になろうとは…―


…
私のAV見ながら触られるのどう？
き…気持ちいいです…ッ
みえ…
なにこれ…参考になんなく無い？
…！
ん？
!?い…今パンツ見てたでしょ!?
は？見てねぇよ
俺の見間違えか…？…濡れてたような…


あんた昔っから
AV好きだし…
イマイチ
信用無いのよね～
昔っから…
パンツはさておき
やはり
俺を知っている…
…いったい…
……君は……
その君ってのやめてよ
昔みたいに齋藤って呼べばいいじゃない
えーと…
サイトウ…は
俺の知り合い…？
は!?
覚えて…ないの？
私よ…
齋藤瑞希
あんたと何度も事あるごとに組まされたじゃない
いや…ほら俺は女とっかえひっかえだから…―
覚えてないんだよごめんな
はぁー…
覚えてないか…
しょうがないか
お互い様な所あるし…
サイトウミズキ…？
何度も？組む？
なんの話――…
昔学校での話よ!!
「AVソムリエ」
田中隼人！
学……―


え――ッ!?
サイトウって……――
あの齋藤瑞希!?
before
そうよ!
キャラ
変わりすぎだろ!!
だって
齋藤って
もっとこう…
陰キャ界の女帝
みたいなやつ
だったじゃん!?
あぁん!?
あんたこそ
陰キャ界の帝王
だったろが!!
私だって
いろいろ
あったのよ!
ズイッ
齋藤瑞希…俺が唯一
絡みのあった女だが…
こいつは女子というより
置物とかモノリスみたいな
無機物として認識してた…――
なるほど
コイツなら
俺に気がついても
不思議では…


近い…！
近い近い…!!
…こんなんで
うろたえるなんて
あんた本当に童貞
なんじゃないの？
いや…ッだから
童貞じゃ…ッ
お前こそAVの触り見て
濡らすなんて
処女なんじゃないか!?
や…やっぱりパンツ
見てたんじゃん!!
ていうか…ッ
濡れてないし!!
もうあの頃とは違う…ッ
私は変わったの!!
ヤリまくりだもの…!!
こんなんで
濡れるわけ
ないじゃない…!!
処女なんてッ
とうに捨てたッ!!
ウソつけ！
濡れてただろ！
俺だってもう
あの頃とは違う…——!!
童貞なんてッ
お願いします！
1ピストンだけ
挿入させて
ください…!!
もう…
しょうが無い
わねぇ…♥
……じゃあ…
証明させろよ…
処女じゃないなら
試しに
1ピストン…！
はッ!?


なによそれ…!?
そんなの…—
遊びなれてる
齋藤にとって
そんなの
挿入のうちに
入らないだろ…!
それで…
証明
できる
じゃない
か…!
……ッ
……
言い分は…
…わかったわ…
そのかわり…
あんたが少しでも
童貞的な行動を
とったら
「田中隼人はAVソムリエで
童貞である」
と言い回ってやるから…!
な…ッ
くそ…ッ
カマをかけたつもりが
逆手に取られた…ッ!!
そんな事されたら
俺の築き上げた
この環境が…—
…よく考えろ…これは…
童貞じゃなければ
なんの問題もない提案じゃ
ないのか…?
「童貞だから
この誘いはビビって
乗ってこない…」
そう踏んだのか…!?
だとしたら……


ここでセックスしないことが一番の不審な行動……ッ!!
!!
もう恐怖症がどうのこうの言っていられない…
コイツに言い回られる方がリスクがでかい……ッ!!
大丈夫…AVで散々見たんだ…
え…?
ちょ…待…本当にやるの…?あんた……
やるさ…!
やりきれる……!
…!
フニッ
…ッ


～～～ッ
…どうしたの？
具合悪そうじゃない
もうやめましょう…？
不審な行動は…
とらない…―ッ
何言ってんだよ…！
ビビってんのか？
はぁ？
あ…あんた
こそ…―
…ッ!!
ぴくっ
グイッ
プルッ
や…ちょっと
…待って…ッ
なんだよ…！
待ったなし
だぞ…！
もみ
むにゅ
いや…
ちが…
ちょっと…
急すぎ…―
ぱくッ
もにゅ
むにゅ


あ…ッ
は…ッ
ん…ッ
あ…んッ
耳にタコができるほど聞いた喘ぎ声…
生で聞くと…
こんなに色っぽいのか……！
ひう…ッ
やっぱり…濡れてるじゃん
や…ちが…それは…——


えッ!?
ま…待って 待って…!
ヌルッ
ヌチ
じゃあこれは… 胸揉まれて 濡れたのか…?
ヌチ
ヌチ…
いやぁ…
すげ……これが生… 暖かくて… ヌルヌルしてる…
は…ッ んッ
あ…ッそこ… だめ…ッ
なんだ…? 急に反応が…
ひやぁ…ッ
ビクッ
コリッ
ビクビク
ビクン
コリッ
ふあ…ッ
フルフル
…! ココ…!


クリ○リス…ッ!!
あ…ッ
だめ…だってば!
どしたんだ?
どんどん
濡れてきてるぞ?
ちが…ッ
そこぉ…
だめぇ…
…ッ
はぁーッ
はーッ…
はーッ…
ナカをいじったら…
どう…
なっちまうんだ…?
たしか…指をこう…
こんな感じだ…
あ…ッ
はいって…
あっ…やぁ…ッ
動かしちゃ…ッ


は…ッ
ン…ッ
あん…ッ
ビク
くちゅ
あッ…だめッ
なんか…
あっ
ビクッ
ビクン
はっ
ぎゅー
なんだよ
今更…怖気
づいたのか？
いや…違うの…
これ以上は…
だめ…―ッ
あっ
プル
プル
スリスリ
ヌルッ
ここまで来て
なにを…―
や…違う…
そうじゃなく…
あ…ッ
あっ
もっ
ムリッ
あぁ…ッ


え…？これ…
もしかして…
…イった…?!
はぁ…
はぁ…
だ…大丈夫か…？
…
約束……本当に
1ピストンだけ…だからね…

1ピストンでバレる嘘
～自称ビッチは
ウブに濡れる～(1)

著者　ユウキHB
発行　スクリーモ

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、
ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。


1ピストンで嘘
自称ビッチはウブに濡れる
ユウキHB
…YUUKI HB…
2

1ピストンでバレる嘘
～自称ビッチは
ウブに濡れる～

第　2　話


1ピストン…！
「穴がわからない」
なんて失敗は…許されない…！
わ…わかってるよ…！
カキャ
カキャ
大丈夫…！
モザイクの向こう側なら何度も見てきたんだ…
何…してるんだ…？
カあぁ…
いや…ッなんでも…その…ッ
…！

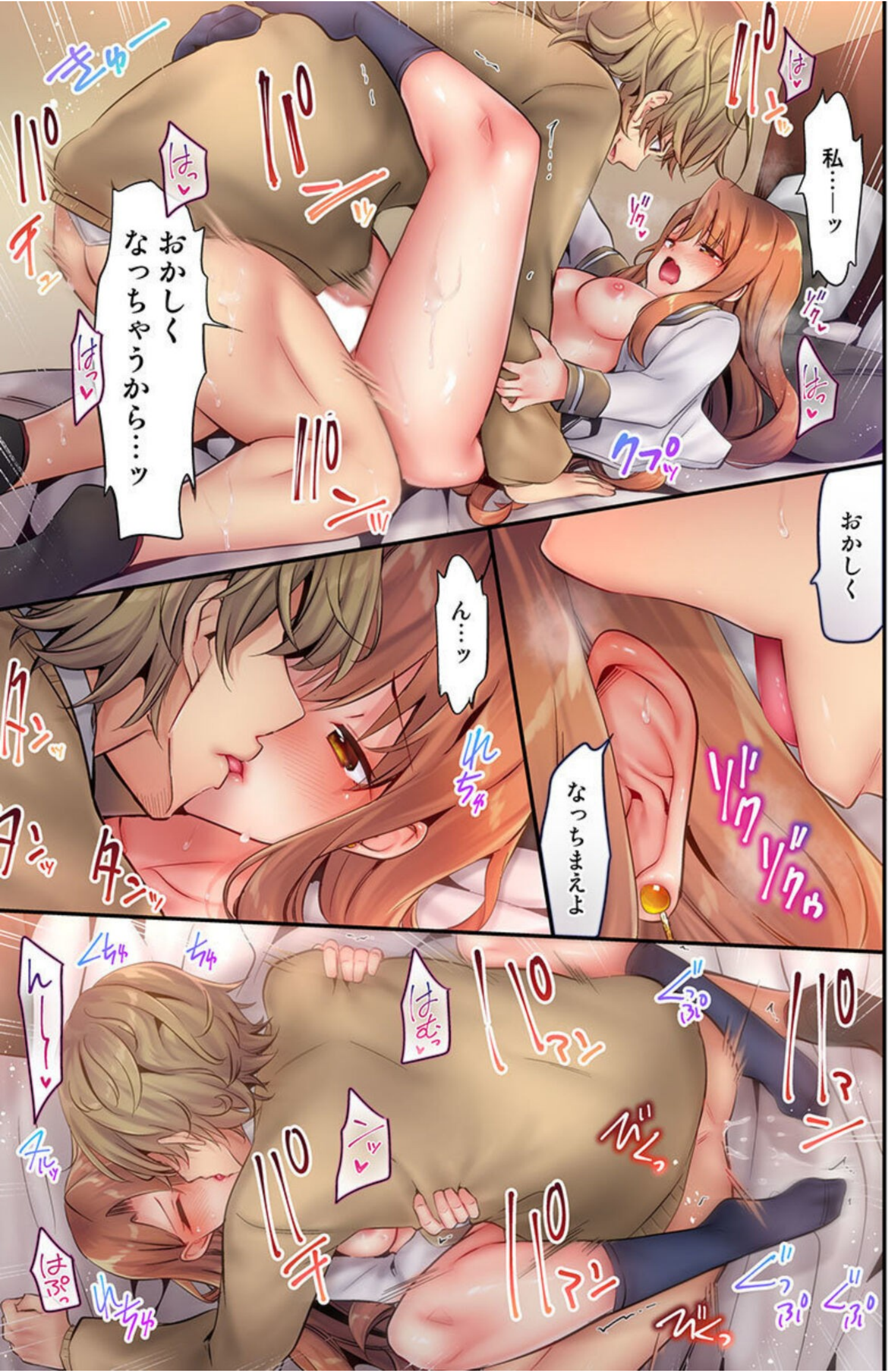

齋藤…
お前もしかしてち〇こ見るのが初めて……―
なッ!?
そんなわけ無いでしょ!?
み…見飽きたから…!
見るまでもないんだから…!!
ファサ
へー…そうじゃあ
自分で挿入れてくれよ
へッ!?
ほら…俺のち〇こ
どこに挿入るんだ?
ん?
ヌル
ヌル
ズクン
あ…ッ
や…ちょっと…ッ
そこで…
動かしちゃ…
ソク
はっ
だめぇ…♥
はっ
ソクソクん…♥
…!
ゴク…


ほら…
しっかり掴んで
ひや!?いや
あ…の…ッ
これ生…
そんなの齋藤から
したら当たり前だろ?
遊び馴れてるん
だから……!
—ッ
…あ…
当たり前…
じゃない…
こ…
ここ…
ここに…—
ここに…何だ?
ん…ッ
うわ…
吸い込まれる…ッ
あ…
あ…ッ


挿入(つな)った…!!
ビクッ
ビクゥ…
ドッ
ドッ
フル…
フル
さす
さす
クチュ
み
ち
……
ドッ
ね…？
こんなの…
ドッ
はー♡
余裕…
はー♡
はー♡
なんだから…
はー♡


はぁ…
ほら…
抜きなさいよ
はぁ…
それで
1ピストン…！
はぁ…
はぁ…
あ…あぁ
グッ…
ん…ッ
はっ
プル
はっ
プル…
ゴク
ひぁンッ!?
ズンッ
ズンッ
ズンッ


え…っ
ちょ…
ちょっと…ッ
約束…と
違…ッ
これが…
女の子のナカ…!
あれ?
私…ッ
ちが…嘘…ッ
止まらない…ッ
だめ…ッ
そこ…
そんな突いたら…ッ
1ピストンだけの…
約束なのに…!
止められない…ッ!!


私…ッ
おかしくなっちゃうから…ッ
おかしく
なっちまえよ
ん…ッ


やぁ…っ
乳首吸っちゃだめ…えッ
わかんなくなっちゃう…
わかんなくなっちゃうからぁ…ッ
あ…ッだめ…もう…ッ
さ…ッ齋藤…ッ
私…また…ッ
俺…もう…やばいかも…ッ
え…ッ嘘…ナカッ
ナマ…ッあ…ッまた来ちゃ…アッ


あ…ッ
出……ッ!!
ビクン
ビクッ
イッ
あっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

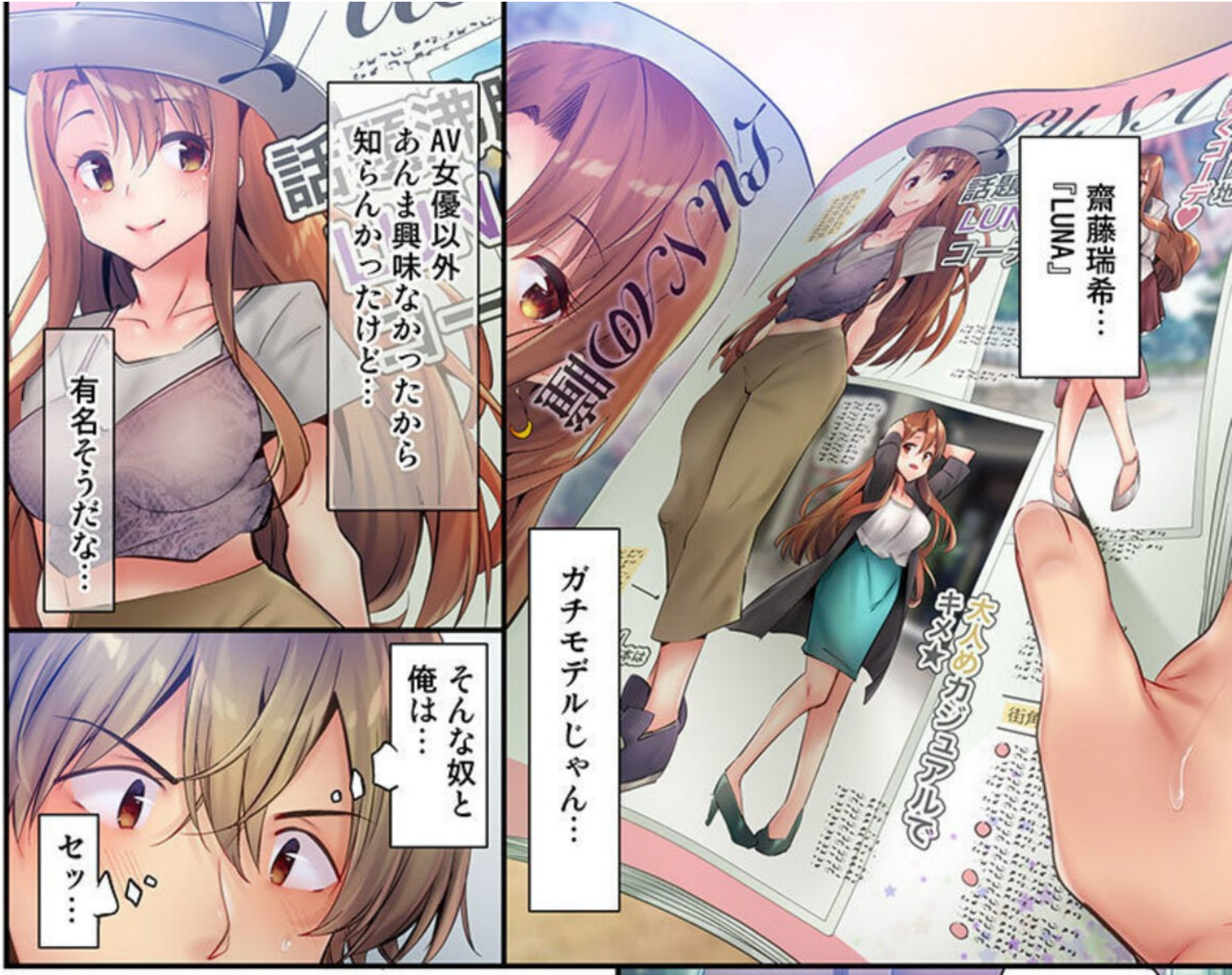

あの…
齋…
……
言ったでしょ
処女なんかじゃ…
きゃぁ…
無いんだから……!!
泣い……
お前…
…

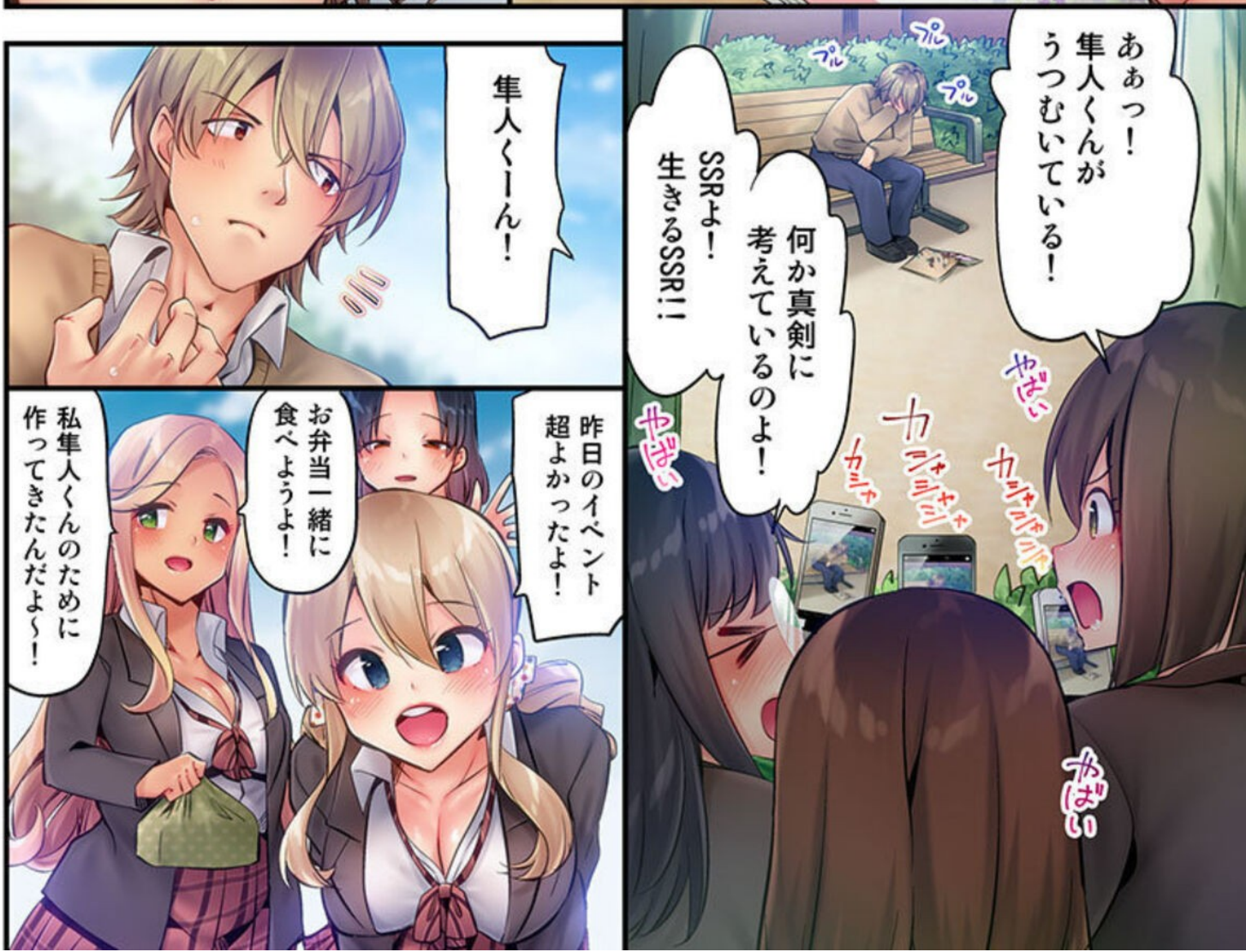

泣いてなんかない…ッ
あ…ッ!!おいっ!
待…ッ
バンッ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
……
なんだよ…
あれ?俺…—
無我夢中だったから気にしなかったけど…
女性恐怖症…なにも……
いやそれより齋藤が…
……
……
っだー!ダメだ…!


いろいろ有りすぎて
思考がまとまらねぇ
齋藤瑞希…
か…
「AVソムリエ」
田中隼人
あいつ…
ガッ


治ったんだ
女性恐怖症…
タタ…


隼人くんが読書しているわ！
すごい遠くから肖像権の侵害をされている…
カシャ
カシャ
カシャ
カシャ
キャー
キャー
レアよ！SRシーンよ！
つうか

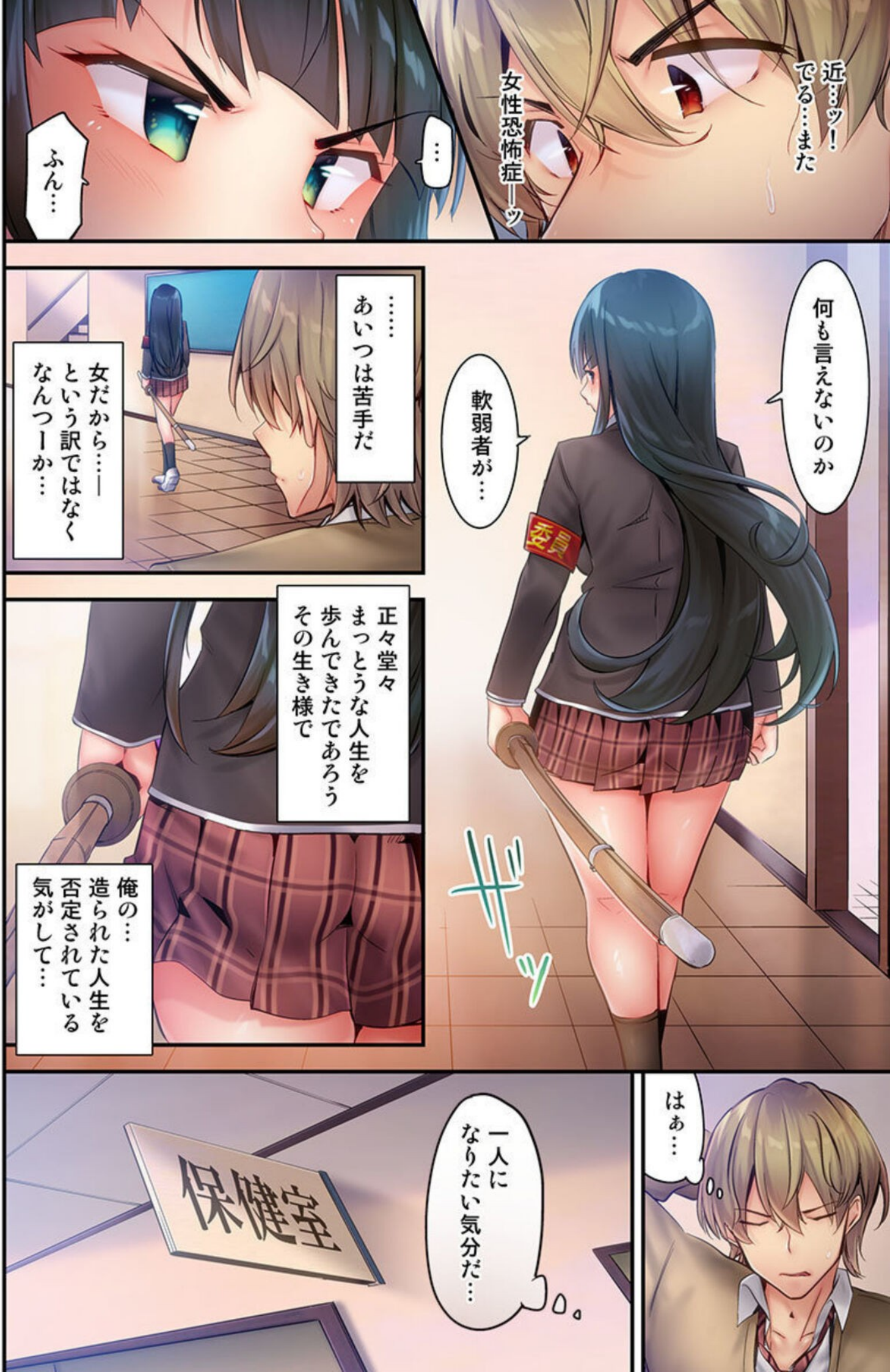

齋藤瑞希…
『LUNA』
大人めカジュアルで
キメ☆
ガチモデルじゃん…
AV女優以外
あんま興味なかったから
知らんかったけど…
有名そうだな…
そんな奴と
俺は…
セッ…


あぁっ！
隼人くんが
うつむいている！
何か真剣に
考えているのよ！
SSRよ！
生きるSSR!!
やばい
カシャシャシャ
隼人くーん！
昨日のイベント
超よかったよ！
お弁当一緒に
食べようよ！
私隼人くんのために
作ってきたんだよ～！


ありがとうな
でも俺
昼ごはん抜く主義
なんだ
俺がブクブク太ってたら
いやっしょ？
えーっ!?
くい
…はい
トロ…♥
またイベやっから
よろしくな
イィ+ー
イィ+ー
ぱー
あっ
隼人くん!?
だめだ
もしかしたらと思って
触れてみたが…
ジャー
キュ…
女性恐怖症が
治ったわけじゃない…ッ


なんで齋藤は平気だったんだ…
一心不乱だったから…？
待て田中
毎時毎分毎秒チャラチャラ軽く
風紀を乱す根源め
お前は…
風紀委員長―
私は
ビ
ッ
お前のような男が大っ嫌いだ!!
鈴木美衣子(すずきみいこ)…！


またも怪しげな催しをやったらしいじゃないか
何かと絡んできては俺を目の敵にする厄介なやつだ
真面目と言うにはあまりにも固く…ヒステリックなまでに正義を尊ぶ
生徒にもしもの事があったらどうするつもりなんだ!?
この学園の法律みたいなやつだ
故に俺のような奴とは水と油…—
まぁまぁ肩の力ぬけよ みいちゃん
下の名で呼ぶな!!
いつもそう肩に力入れてちゃ疲れちまうぞ
今度お前も来てみたらどうだ？意外と楽しめ—
ふざけるな
いつかお前の催しは潰してやるからな


近…ッ！
でる…また
女性恐怖症―ッ
…
ふん…
何も言えないのか
軟弱者が…
委員
……
あいつは苦手だ
女だから…―
という訳ではなく
なんつーか…
正々堂々
まっとうな人生を
歩んできたであろう
その生き様で
俺の…
造られた人生を
否定されている
気がして…
はぁ…
一人に
なりたい気分だ…
保健室


あー
めんどくせぇ
む…？
先約か…
クソ真面目学園で
クソ真面目に
するのも
楽じゃねーなぁ
うわぁ女の子だ…
別の所に
行こうかな…
なんか
ヤンキーぽいし…
カチッ
ん…？
あれは…―
カチッ
カチッ
ショボッ
タバコ…!?
おいおい…
学内でそれは
ダメだろ…
ガラッ
!!
…ッて
お…ま…ッ


あ…え？
マジ…？
…―ッな…
しん…
!?
何でもするから許してくれー!!
ガ
ば


頼む…！
この事は…！
この事だけは―ッ!!
ガク
ガク
ガク
やめ…ッ！
触るな…!!
触るとまた…―
―あれ…？
出ない…
女性恐怖症が…―
私は…ッ
その…！
隼人！お願いだ
隼人…！
わかった…
わかったから
落ち着け…！
隼人!?
少し触らせて
くれればいいから…!!
さわっ…!?
俺は今驚いている…―
コイツが非行に
走っている事と
ざ…ッ
ざっけんなよ…
ゴク…
自身の体が立て続けに
女子を受け入れている事にだ
他の女子と…
人が下手に
出てるからって…―
ヂー
齋藤瑞希…
鈴木美衣子…
この二人の
違いはなんだ…―？


もう一度…
肩でも触って
確かめっ――
これで満足だろ…
思う存分触れよ…！
って脱いでる――!?
は…隼人が
おっぱい
触らせろって
言ったんだろ！
言ってねーよ!?
ちょっと触って…
どの段階で無理になるか
確かめられればよかったんだが…
まぁ…
ある意味
話が早い…か
で…でも…ッ
下着の上から
だけだからな…！
…わかった
きゅ…
急におっぱい
触るのかッ!?
さっきの
覚悟は何だよ
う…


それより…
今日のことは
約束通り…
ムニィ
黙ってろよな…！
わかってるよ…
いつもの真面目は
どうした？
…つうか…それが
お前の素なのか…？
わ…悪いかよ…！
ソレを黙ってろって
言ってんだ…!!
まさか
コイツが…
ビクッ
…っ
く…ッ
もみゅ
は…ッ
悪いなんて
いってねーだろ
ヤンキー
だったとは…
もじ
は!?ちょ…ッ
そこも…!?
…あんま
調子に…——ッ
さす…
思う存分
触れって言ったのは
お前だぞ
や…め
ビクビク


俺は
素の鈴木のほうが
好きだな
へっ!?
背景は
わからないが
え…
はぁ…!?
喧嘩売ってんのかて め…
こいつも
俺と一緒…
なのかもな…—
ん～?
鈴木…ここ
濡れてきて…
や…おい!
話をそらすな…!
おい!
やめ…!
下着の上から
だけだって…—!!
あ…ッ!!

1ピストンでバレる嘘
～自称ビッチは
ウブに濡れる～(2)

著者　ユウキHB

発行　スクリーモ

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、
ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。